

---

# フォーマルハウト

朝霧幸太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

フォーマルハウト

### 【Nコード】

N3840Q

### 【作者名】

朝霧幸太

### 【あらすじ】

500字のショートストーリーですので、あらすじは記しません。

## （前書き）

この作品は、お題を元に書きました。

《まなぶさん、ごめん。あたし達、やっぱり合わないと思う》

佳織からのメールが入ったのは二日前だ。

「今から会えないか？」

『ごめん。残業なの』

僕が電話を入れても素っ気ない返事だ。それはいいとしても問題は現実の行動だ。

佳織は残業の筈なのに、ついさっき、新しい彼氏と腕を組みながら嬉しそうに歩いているのを街中で見かけてしまった。

僕は踵を返して公園に飛び込んだ。

逃げるように歩き、ベンチに腰を降ろすと、低い空に【南のひとり星】が瞬いている。

秋の星空は寂しい。南の空に独りきりで輝く【孤独の星フォーマルハウト】だ。

「女ごころと秋の空か……」

公園のベンチに横たわり、目をつぶった。

すると、ハッハッハッと妙な息づかいが近づいて来たかと思うと、何者かにベロンと頬を舐められた。

「うわわっ！」

僕が飛び起きると、犬を連れた若い女性が立っていた。

「あつ！ ごめんなさい。だって、まさか、こんなところに誰が居るなんて……」

お互いに驚いて、そして笑った。

彼女はハンカチで僕の頬を拭いてくれている。

なんて優しいひとなんだろう。

僕の胸は高鳴った。

了

（後書き）

お題は

星空

秋

公園

でした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3840q/>

---

フォーマルハウト

2011年1月28日07時46分発行